

体育授業におけるコミュニケーション能力の有効性

志水 つぐみ (生涯スポーツ学科 学校スポーツコース)

指導教員 南島 永衣子

キーワード：コミュニケーション、社会性スキル、社会的不安・対人的抑制

1. 緒言

小学校では2011年4月から、新学習指導要領が全面実施となった。小学校学習指導要領解説総則編では、子どもたちのコミュニケーション能力を重視しており、言語能力や言語活動といった言語機能の充実を求められるようになってきている(文部科学省, 2008)。また、新学習指導要領を受け、体育授業では、コミュニケーション能力向上も視野に入れ、「体づくり運動」が導入されたと考えられる。

そこで、本研究では、コミュニケーション能力向上に向けた教材を開発し、その教材の有効性を検討することを目的とした。

2. 研究方法

豊中市立T小学校第6学年35名(男子19人女子16人)を対象とし、2011年10月27日から11月14日の間の体育授業の導入部分において4回実施した。アンケート用紙については、菊池(2004)によって作成されたkiss18の研究及び、相川・藤田(2005)によって作成された成人用ソーシャルスキル自己評定尺度を使用した。教材については、「手をつないでこんにちはじゃんけん」を使用し、データ処理については、統計ソフトSPSS19 for windowsで、対応のあるt検定を行った。

3. 結果

教材実施前の社会的スキル得点の平均においては3.20(0.41)、実施後の社会的スキ

ル得点の平均においては、3.54(0.55) $t = -3.175*$ であり、統計的に有意な差がみられた。

社会的不安・対人的抑制得点においては、変化がみられなかったため、男女別に社会的不安・対人的抑制得点の変化をみた。

男子の社会的不安・対人的抑制得点においては、教材実施前の社会的不安・対人的抑制得点は3.29(0.38)であり、実施後は3.20(0.41) $t = -1.221$ で統計的に有意な差は見られなかった。対して、女子の教材実施前の社会的不安・対人的抑制得点は3.26(0.33)であり、実施後においては、3.06(0.35) $t = 3.08*$ と女子は、統計的に有意な差がみられた。

4. まとめ

体育授業の導入部分においてコミュニケーション能力向上に関する教材の活用によって、コミュニケーション能力が向上することが示唆された。

今後は男子の社会的不安・対人的抑制も軽減できるよう教材を改善し、体育授業におけるコミュニケーション能力向上に役立てていきたい。

引用・参考文献

文部科学省(2008)『小学校学習指導要領解説総則編』東洋館出版社。

相川 充、藤田 正美(2005)成人用ソーシャルスキル自己評定尺度の構成.「東京学芸大学紀要第1部門教育科学」, p. 56.